

【賞状】



3学期になると今まで応募していた作品への賞状がたくさん届きます。子どもによっては、何枚ももらう強者もいますが、たいがいは1枚もらえたら「しあわせ」。

賞状は子どもたちにとって、とてもかけがえのない物なのです。

昨日、校長室にて賞状をもらったE君。そんなE君に次の日廊下で会いました。するとすごい勢いで私めがけて突進してくるのです。

(な・な・なんだ) 私が後ずさりすると…

「校長先生、きのうは しょうじょう ありがとう」

その勢いに押されながら、「ど・ど・どいまして」と、私はただたんに授与をただけなのですが、熱烈な御礼をいただいてしまって、こんなこたえをしてしまいました。

そして、改めて、賞状の威力を目のあたりにするとともに、なるべく多くの子どもたちにそのチャンスを作ってあげたいなあ、と思うのでした。

賞状は「たかが賞状。されど賞状」なのであります。



神川橋の見学会

神川小学校にお世話になって3年が過ぎました。

1年目。コロナ下であったため、なかなか多くの方々との交流がしづらかったです。そこではじめた「校長のまなざし」。校長は、どんなまなざしで子どもたちを見つめているのかを皆さんに伝えたい、そんなかっちょいいテーマを持ってはじめたのが「校長のまなざし」でした。

しかし、今年度、自身の多忙感等で、そのまなざしは曇ることが多く、また、忙しさにかまけて、月1回の掲載もままならない時もありました(なさけない)。

確か、これをはじめた時はただただ純粹に、子どもの「おもしろさ」「ステキさ」があまりにもすごくて、それを皆さんに伝えたくて、語りたくて。その一心であったはずなのに。

こんな複雑な面持ちの中ですが、今回《風景 35》を持ちまして、まなざしは最終号となります。今までご一読いただきましたことに感謝申し上げながら、またどこかでお会いできることを楽しみにしております。

おすびに、今後とも神川小学校のステキな子どもたちのことを何卒よろしくお願い致します。お世話になりました。ありがとうございました。